

III

学部・研究科等による 取組み

III-2 千葉第二キャンパス

千葉第二キャンパス学年暦 127

看護栄養学部 131

学部レビュー

- 1 学生の受け入れ（在籍管理）
- 2 教育課程
- 3 教育組織
- 4 学生支援
- 5 就業支援
- 6 研究活動
- 7 社会貢献
- 8 図書室（千葉第二）
- 9 自己点検・評価

看護学研究科 156

研究科レビュー

- 1 学生の受け入れ（在籍管理）
- 2 教育課程
- 3 教育組織
- 4 その他（学生支援）

2016 (平成28) 年度 千葉第二キャンパス〔看護栄養学部〕 学年暦

4 月		5 月		6 月	
1 金	新年度オリエンテーション(1年次生)	1 日		1 水	7
2 土	健康診断(1・4年次生)	2 月		2 木	7
3 日	第52回入学式(学部合同)	3 火	昭和日の振替休日	3 金	7
4 月	新年度オリエンテーション(4年次生)	4 水	みどりの日	4 土	
5 火	新年度オリエンテーション(1・3年次生)	5 木	こどもの日	5 日	
6 水	新年度オリエンテーション(1・2年次生)	6 金	海の日の振替休日	6 月	8
7 木	新年度オリエンテーション(1年次生)	7 土		7 火	8
8 金	前学期授業開始	8 日		8 水	8
9 土	健康診断(両学科2年次生・3年次生)	9 月		9 木	8
10 日		10 火		10 金	8
11 月	前学期履修登録開始 [4/11 9:00～4/14 13:00まで] (予定)	11 水		11 土	
12 火		12 木		12 日	
13 水		13 金		13 月	9
14 木	前学期履修登録締切 [4/11 9:00～4/14 13:00まで] (予定)	14 土	B型肝炎ワクチン接種1 (看護学科1年次生)	14 火	9
15 金		15 日		15 水	9
16 土		16 月		16 木	9
17 日		17 火		17 金	9
18 月	前学期履修取消期間開始 [4/18 8:50～4/20 13:00まで] (予定)	18 水		18 土	
19 火		19 木	5 教授会	19 日	
20 水	前学期履修取消期間終了 [4/18 8:50～4/20 13:00まで] (予定)	20 金		20 月	10
21 木	教授会	21 土		21 火	10
22 金	降誕会(千葉キャンパス・千葉第二キャンパス終日休講)	22 日		22 水	10
23 土	創立記念日、臨地実習報告会(栄養学科)	23 月		23 木	10
24 日		24 火		24 金	10
25 月	前学期学費納入期限(学部・大学院)	25 水		25 土	
26 火		26 木		26 日	
27 水		27 金	総合実習全体発表会	27 月	11
28 木		28 土	スポンサーフェア/エーション祭(千葉C)	28 火	11
29 金	通常授業(昭和の日)	29 日		29 水	11
30 土		30 月		30 木	11
31 日		31 火			
7 月		8 月		9 月	
1 金	11 前学期定期試験	1 月		1 水	
2 土	2 前学期定期試験	2 火		2 木	
3 日	3 前学期定期試験	3 水		3 金	
4 月	4 前学期定期試験	4 木		4 日	
5 火	5 前学期定期試験	5 金		5 月	
6 水	6 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	6 土		6 月	
7 木	7 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	7 日		7 火	
8 金	8 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	8 月		8 水	
9 土	9 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	9 火		9 木	
10 日	10 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	10 水		9 金	
11 月	11 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	11 木		10 土	
12 火	12 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	12 金		11 日	
13 水	13 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	13 土		12 月	1
14 木	14 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	14 日		13 火	1
15 金	15 前期業務体制のため事務部窓口閉鎖	15 月		14 水	1
16 土	16 卒業生の集い(予定)	16 火		15 木	1
17 日	17 オープンキャンパス	17 水	【第2C科目】再試験申込開始 [8/16 8:50～8/18 13:00まで]、再試験対象者の指導期間	16 金	1
18 月	18 通常授業(海の日)	17 水	再試験対象者の指導期間	17 土	
19 火	19 通常授業(海の日)	18 木	【共通】再試験申込締切 [8/16 8:50～8/18 13:00まで]、再試験対象者の指導期間	18 日	
20 水	20 通常授業(海の日)	19 金		19 月	2
21 木	21 通常授業(海の日)	20 土		20 火	2
22 金	22 通常授業(海の日)	21 日		21 水	2
23 土	23 通常授業(海の日)	22 月		22 木	2
24 日	24 通常授業(海の日)	23 火		23 金	2
25 月	25 通常授業(海の日)	24 水		24 土	2
26 火	26 通常授業(海の日)	25 木		25 日	2
27 水	27 通常授業(海の日)	26 金		26 月	3
28 木	28 通常授業(海の日)	27 土		27 火	3
29 金	29 通常授業(海の日)	28 日		28 水	3
30 土	30 通常授業(海の日)	29 月		29 木	3
31 日	31 通常授業(海の日)	30 火		30 金	3
		31 水	前学期成績発表		
1 水		2 木		1 水	
2 木		3 金		2 木	
3 金		4 土		3 金	
4 土		5 日		4 土	
5 日		6 月		5 日	
6 月		7 火		6 月	
7 火		8 水		7 火	
8 水		9 木		8 水	
9 木		10 金		9 木	
10 金		11 土		10 金	
11 土		12 日		11 土	
12 日		13 月		12 日	
13 月		14 火		13 月	
14 火		15 水		14 火	
15 水		16 木		15 水	
16 木		17 金		16 木	
17 金		18 土		17 金	
18 土		19 日		18 土	
19 日		20 月		19 日	
20 月		21 火		20 月	
21 火		22 水		21 火	
22 水		23 木		22 水	
23 木		24 金		23 木	
24 金		25 土		24 金	
25 土		26 日		25 土	
26 日		27 月		26 日	
27 月		28 火		27 月	
28 火		29 水		28 火	
29 水		30 木		29 水	
30 木		31 金		30 木	
31 金				31 金	

10 月		11 月		12 月	
1 土		1 火	7	1 水	11 成道会
2 日		2 水	8	2 金	11
3 月		3 木		3 土	
4 火		4 金	文化の日	4 日	
5 水		5 土	龍澤祭準備のため終日休講	5 月	12
6 木		6 日	龍澤祭 オープンキャンパス	6 火	12
7 金		7 月	龍澤祭 オープンキャンパス	7 水	12
8 土		8 火	龍澤祭後片付けのための終日休講	8 木	12
9 日		9 水		9 金	12
10 月		10 木		10 土	AOI期入学試験
11 火		11 金	B型肝炎抗体検査(看護学科1年次生)	11 日	
12 水		12 土	推薦・社会人・学園傘下高校特別選抜入学試験	12 月	13
13 木		13 日		13 火	13
14 金		14 月		14 水	13
15 土		15 火		15 木	13 教授会
16 日		16 水		16 金	13 【第2C科目】後学期定期試験日程発表(予定)
17 月		17 木		17 土	入学前セミナー(予定)
18 火		18 金		18 日	
19 水		19 土		19 月	14
20 木		20 日		20 火	14
21 金		21 月		21 水	14
22 土		22 火		22 木	14
23 日		23 水	勤労感謝の日(授業休講)	23 金	14 通常授業(天皇誕生日)
24 月		24 木		24 土	
25 火		25 金		25 日	
26 水		26 土		26 月	事務部窓口閉鎖期間(H28.12.26~H29.1.5)
27 木		27 日		27 火	
28 金		28 月		28 水	
29 土		29 火		29 木	
30 日		30 水		30 金	
31 月		31 日		31 土	
1 月		2 月		3 月	
1 日		1 水		1 水	卒業発表(両学科4年次生)
2 月		2 木		2 水	
3 火		3 金	一般入試 一般入試【第2C科目】再試験対象者・日程発表 【共通】再試験申込開始 [2/3 8:50~2/6 13:00まで]	3 金	随地実習報告会(公衆栄養・給食経営管理)
4 水		4 土		4 土	AOI期入学試験
5 木		5 日		5 日	
6 金		6 月		6 月	
7 土		7 火	再試験申込締切 [2/3 8:50~2/6 13:00まで]	7 火	
8 日		8 水	【第2C科目】再試験期間	8 水	
9 月		9 木	【第2C科目】再試験期間	9 木	
10 火		10 金	【第2C科目】再試験期間	10 金	
11 水		11 土	祝日(建国記念の日)、一般入試2次試験	11 土	随地実習報告会(臨床栄養)
12 木		12 日		12 日	
13 金		13 月		13 月	
14 土		14 火	基礎看護学実習II(看護学科2年次生) [2/13~3/10まで]	14 火	
15 日		15 水		15 水	卒業式 卒業記念パーティー
16 月		16 木	教授会(卒業判定)	16 木	教授会
17 火		17 金		17 金	
18 水		18 土		18 土	
19 木		19 日		19 日	
20 金		20 月	後学期成績発表(4年次生)・【千葉C科目】再試験日程発表	20 月	
21 土		21 火		21 火	
22 日		22 水	【千葉C科目】再試験期間 [2/22~25]	22 水	
23 月		23 木	【千葉C科目】再試験期間 [2/22~25]	23 木	後学期成績発表(1・2・3年次生)、進級発表(看護学科1・2・3年次生)
24 火		24 金	【千葉C科目】再試験期間 [2/22~25]、教授会(卒業判定)	24 金	
25 水		25 土	【千葉C科目】再試験期間 [2/22~25]	25 土	
26 木		26 日		26 日	
27 金		27 月		27 月	オープンキャンパス(千葉C)
28 土		28 火		28 火	
29 日		29 水		29 水	
30 月		30 木		30 木	
31 火		31 金		31 金	

※「回」に数字が記載されていない日は、通常授業はありません。ただし、補講等が実施される場合(土曜も含む)がありますので、ご注意ください。

2016 (平成28) 年度 千葉第二キャンパス〔看護学研究科〕 学年暦

4 月		5 月		6 月	
1 金		1 日		1 水	
2 土	健康診断 オリエンテーション [4/2～4/16]	2 月	昭和の日の振替休日 事務部閉鎖	2 木	
3 日	第1回入学式(学部合同)	3 火	憲法記念日	3 金	
4 月		4 水	みどりの日	4 土	
5 火		5 木	こどもの日	5 日	
6 水		6 金	海の日の振替休日 事務部閉鎖	6 月	
7 木		7 土		7 火	
8 金	前学期授業開始	8 日		8 水	
9 土	健康診断	9 月		9 木	
10 日		10 火		10 金	
11 月	前学期履修登録開始	11 水		11 土	
12 火		12 木		12 日	
13 水		13 金		13 月	
14 木	主査・副査決定(修了年次生のみ)	14 土		14 火	
15 金		15 日		15 水	
16 土		16 月		16 木	
17 日		17 火		17 金	
18 月		18 水		18 土	学園建学式・教職員特別研修会 [午前中:大学教職員研修会] 事務部窓口閉鎖
19 火		19 木	奨学生(給付・貸与、日本学生支援機構) 選考面接	19 日	受検希望者向入学試験説明会
20 水		20 金		20 月	
21 木		21 土		21 火	
22 金	降誕会(千葉キャンパス・千葉第二キャンパス終日休講)	22 日		22 水	
23 土	創立記念日	23 月	前学期履修登録確認期間 [5/23～5/27]	23 木	研究科委員会
24 日		24 火		24 金	
25 月	指導教員希望届提出締切 前学期学費納入期限(学部・大学院)	25 水		25 土	
26 火	最終研究計画書提出(修了年次生のみ)	26 木	研究科委員会	26 日	
27 水		27 金		27 月	
28 木	研究科委員会 指導教員の確定	28 土		28 火	
29 金	指導教員の発表 通常授業(昭和の日)	29 日		29 水	
30 土		30 月		30 木	
31 日		31 火			
7 月		8 月		9 月	
1 金		1 月	前学期試験期間	1 水	
2 土	白旗七夕祭り	2 火	前学期試験期間	2 木	
3 日		3 水	前学期試験期間	3 金	
4 月		4 木	前学期試験期間	4 土	
5 火		5 金	前学期試験期間	5 日	
6 水		6 土	夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖	6 月	
7 木	志願益会	7 日		7 水	
8 金		8 月		8 木	
9 土		9 火		9 金	前学期成績発表
10 日		10 水	前学期 成績報告締切	10 土	学園AO1期入学試験 学内立入禁止
11 月		11 木	山の日	11 日	
12 火		12 金		12 月	後学期授業開始
13 水		13 土	夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖	13 火	後学期履修登録開始 [9/13～9/30]
14 木		14 日		14 水	
15 金		15 月		15 木	
16 土		16 火		16 金	
17 日		17 水		17 土	
18 月		18 木		18 日	通常授業(敬老の日)
19 火	通常授業(海の日)	19 金		19 月	
20 水		20 土	夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖	20 火	
21 木		21 日		21 水	
22 金		22 月		22 木	通常授業(秋分の日) 研究科委員会
23 土		23 火		23 金	後学期学費納入期限(大学院)
24 日		24 水		24 土	
25 月		25 木		25 日	
26 火		26 金		26 月	
27 水		27 土	夏期業務体制のため事務部窓口閉鎖	27 火	
28 木	研究科委員会	28 日		28 水	
29 金		29 月		29 木	
30 土		30 火		30 金	後学期履修登録締切 [9/13～9/30]
31 日	前学期授業終了	31 水			

第1部 III 学部・研究科等による取組み

2 千葉第二キャンパス

10 月		11 月		12 月	
1 土	第1回入学試験	1 火		1 水	成道会
2 日		2 水		2 金	
3 月		3 木		3 土	
4 火		4 金	文化の日	4 日	
5 水		5 土	龍澤祭準備のため終日休講	5 月	
6 木		6 日	龍澤祭	6 火	
7 金		7 月	龍澤祭	7 水	
8 土		8 火	龍澤祭後片付けのための終日休講	8 木	
9 日		9 水		9 金	
10 月	通常授業(体育の日)	10 木		10 土	学部AOⅡ期入学試験 学内立入禁止
11 火		11 金		11 日	
12 水		12 土	学部推薦・社会人・学園傘下高校特別選抜入学試験 学内立入禁止	12 月	
13 木		13 日		13 火	
14 金		14 月		14 水	
15 土	学部AOⅡ期入学試験 学内立入禁止	15 火		15 木	
16 日		16 水		16 金	
17 月	後学期履修登録確認期間 [10/17～10/21]	17 木		17 土	
18 火	敬老の日の振替休日(授業休講)	18 金	研究計画書作成・倫理審査受審(毎月20日締切)	18 日	
19 水		19 土		19 月	
20 木	研究計画書作成・倫理審査受審(毎月20日締切)	20 日		20 火	
21 金		21 月		21 水	
22 土		22 火		22 木	研究科委員会
23 日		23 水		23 金	通常授業(天童誕生日)
24 月		24 木		24 土	
25 火		25 金		25 日	
26 水		26 土	勤労感謝の日(授業休講)	26 月	
27 木	研究科委員会	27 日		27 火	
28 金		28 月		28 水	
29 土		29 火		29 木	
30 日		30 水		30 金	
31 月		31 木		31 土	
1 月		2 月		3 月	
1 日	元日	1 水	後学期 成績報告締切	1 水	
2 月	振替休日	2 木	学部一般入試	2 木	
3 火		3 金	学部一般入試	3 金	
4 水		4 土		4 土	学部AOⅣ期入学試験 学内立入禁止
5 木		5 日		5 日	
6 金	新年授業開始日	6 月		6 月	
7 土		7 火		7 火	
8 日		8 水		8 水	
9 月	成人の日	9 木		9 木	
10 火		10 金		10 金	
11 水		11 土	祝日(建国記念の日)	11 土	
12 木		12 日		12 日	
13 金	大学入試センター試験準備	13 月	研究計画書提出	13 月	
14 土	大学入試センター試験 [1/14～1/15]	14 火		14 火	
15 日	大学入試センター試験 [1/14～1/15]	15 水		15 水	
16 月		16 木		16 木	
17 火	後学期試験期間	17 金		17 金	
18 水	後学期試験期間	18 土		18 土	
19 木	後学期試験期間	19 日		19 日	
20 金	後学期試験期間	20 月		20 月	春分の日
21 土	後学期 授業終了	21 火		21 火	
22 日		22 水		22 水	
23 月	後学期試験期間	23 木	研究科委員会	23 木	研究科委員会
24 火		24 金	後学期成績発表	24 金	
25 水		25 土		25 土	
26 木	研究科委員会	26 日		26 日	
27 金		27 月		27 月	
28 土	第2回入学試験	28 火	研究計画発表会	28 火	
29 日				29 水	
30 月	修士論文返テーマ提出			30 木	
31 火				31 金	

平成28年度 千葉第二キャンパス（看護栄養学部）レビュー

1. 平成28年度振り返り

【学部】

●学生募集（取組み、成果）

両学科への、関心を高めるために、オープンキャンパスでは、すべての回で模擬授業や体験授業を実施した。また学科説明での建学の精神やアドミッションポリシーの周知により、入学動機の明確な学生の募集に力を入れた。28年度入学者は、看護学科が113名、栄養学科が90名であった。両学科共に入学定員を充足できた。

●キャリア支援（取組み、成果）

看護学科の就職に関しては、キャリア支援委員会を中心にアドバイザー教員、キャリアカウンセラー等と協力し、就職合同説明会や個別相談会を開催し支援を強化した。また、教養試験対策講座なども開講し、就職率は100%を達成した。看護師国家試験対策講座、保健師対策講座を複数回行い、国家試験合格率は、96.1%、保健師国家試験合格率は、100%であった。

栄養学科は、就職相談をキャリア支援室、キャリアセンターを中心に継続指導行った結果、就職率は、100%であった。管理栄養士国家試験対策は、キャリア支援室及び学科を中心に行った。合格率は、74.6%であった。

●正課活動（取組み、成果）

積極的なアクティブラーニングの導入への取り組みにより、100%の科目で取り入れられた。ループリックについては、看護学科、栄養学科共に臨地実習の成果評価として継続使用を行っている。

●正課外活動（取組み、成果）

ボランティア講座の参加者数は、61名で、修了者は、26名であった。修了率は43%であった。地域連携をより強化し、新たな活動も開始されたことで、ボランティア活動の要請が高まっているため、活動を更に活発化させていく。

●その他

看護学科、栄養学科共にカリキュラムに関するアンケートを教員・学生にて実施しその評価を随時改革に取り入れている。

学部としてアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの見直しを行い、3ポリシーの整合性がとれるようになった。

2. 次年度への課題、方策

- 1) 看護国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%、管理栄養士国家試験合格率
全国平均（管理栄養士養成校平均）を目標とする。両学科の4年次性、特に成績低迷者の国家試験に取り組む意欲をひきだし、国家試験対策講座出席率については100%を目指す。
3年次性から国家試験対策準備講座をスタートさせ、周知徹底を図る。
- 2) 就職希望者の就職内定率を両学科共に100%にする。

以上

1 学生の受け入れ（在籍管理）

関連委員会	入試・広報委員会
関連部署	看護学科、栄養学科
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 栄養学科の受験生の確保は単年ではわからないので、継続的に受験者が確保できるよう、オープンキャンパスを工夫し、高校訪問にも力を入れる。
総合福祉学部では一般C試験に学力テストを採用する計画もあり、今後看護栄養学部も過去5年分の受験生のデータを活用し、入学者の判定材料にできるよう検討を進める。IR推進室の活用を進める。
- (2) 今後、センター試験の廃止など入試制度が大きく変わるので、選抜基準や人物評価の方法について検討を始める。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 両学科の受験者を増やし、入学定員を充足する。
(2) 各学科で得られる資格（専門職）に関して十分な理解と明確な動機をもつ者の入学を促進する。
(3) 昨年度に引き続き入試区分ごとの適切な合格者数を検討する。
(4) 2020年入試制度の変更を睨みながらAO入試の試験方法について検討する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) オープンキャンパスをより充実させていく。アンケート等の結果を参考にしながらオープンキャンパスでの体験的内容を継続し、各学科への関心を高める。栄養学科は年内の入試で50名以上確保する。高校訪問にも力を入れる。新設大学等の情報を早めにキャッチし、分析して対策を立てる。
- (2) 26年度より行っている、オープンキャンパスでの詳細な学科説明を継続し、学習内容、資格、建学の精神、アドミッションポリシー等について説明する。また、入試の際、志望理由書や面接によって、資格（専門職）についての予備知識の有無を確認するようにする。
- (3) 過去の入試データ、入試区分別に入学後のGPAの分析をIR推進室や学内の関係部署と連携しながら行い、合格者数の配分を考える際の参考とする。
- (4) 昨年度に引き続き、AO入試の試験方法について検討を行う。新しい入試制度における選抜基準や人物評価の方法等について検討を始める。

3 取組状況

DO

- (1) 第2キャンパスで実施するオープンキャンパスでは、全てに体験授業を入れ、参加者の関心を高めるように配慮した。また、指定校推薦の見直しを行い、指定校の設定基準を引上げ、入学実績に見合った高校を増やした。広報活動について、高校への出張講義は依頼が少なく看護学科の1校のみであった。
- (2) オープンキャンパスでは学科説明を継続し、学習内容、資格、建学の精神、アドミッションポリシーの説明を必ず入れた。また、AO入試、推薦入試における面接試験では資格取得の意欲の確認を行った。
- (3) 過去の入試データに基づき、試験区分ごとの人数の設定を行った。今年度は、AO入試、推薦入試、一般入試、センター利用入試ともに昨年の受験者数を下まわっていたため、一般入試、センター利用入試では合格者の歩留まりを過去のデータを用いて合格ラインを決定した。

- (4) 受験者の減少がみられることから、試験区分も含めた入試について検討を行い、次年度はAO IV期を廃止して3月に他学部と同様に選択型入試を導入する。また、AO入試の配点について、全学で統一を図るために配点の変更を検討し、決定した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 入学手続き者は2016年度末で看護学科119名、栄養学科88名を確保している。
受験者は18歳人口の減少、近隣大学の増加によって前年度よりも減少したが、今年度の取り組みによって減少量は抑えられたと考える。
- (2) 得られる資格（専門職）に関して十分な理解と明確な動機をもつ者が受験者になっているかについては評価できないが、オープンキャンパスでの説明、試験面接時の確認については実施できた。
- (3) 入学者は看護学科106人、栄養学科83人となり、入学定員を満たすことができた。
- (4) 次年度の入試制度について、検討を行い決定した。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・次年度からAO入試、推薦入試受験者は、オープンキャンパスの参加が必要となるため、オープンキャンパスの内容を再検討する。また、AO入試の配点に変更となり、面接点が高く設定されるため、面接内容、評価方法について検討する。
- ・次年度から3月に選択型入試を導入するにあたり、試験区分別の合格者数の決定にあたっては過去データを見ながら決める
- ・18歳人口の減少に加え、大学の増加が見込まれているため、受験者の確保、入学定員の確保ができるよう、その対応を計画する。

以上

2 教育課程①〔看護学科〕

関連委員会	教務委員会、実習委員会、学習支援委員会、キャリア支援委員会等
関連部署	看護学科
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

他者との関係性構築に課題を有する学生についての情報共有を徹底し、指導に活かす。
また、カリキュラムマップ作成に取り組む予定である。学習会を踏まえ、各担当科目において展開している教育内容がカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーおよび大学学士力のどの項目に該当するのかを自己評価してもらったデータ（H27年度）を活用していく予定である。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- 1) 国家試験合格100%
- 2) 成績低迷者や留年生の把握と指導
- 3) 大学間連携事業の推進
- 4) 教員・学生の地域への貢献の継続
- 5) 実習指導上配慮が必要な学生に対する一貫した指導の徹底
- 6) カリキュラムマップの作成

2 具体的計画

PLAN

- (1) 国家試験不合格者の分析を生かし、習支援を行う。
- (2) 成績低迷者や留年生に対し学習習慣をつけるために継続指導を行う
- (3) 大学間連携事業の推進・
 - ア 実習ルーブリックおよびコモンルーブリックの活用
 - イ 学科構成員が一丸となって効果的なアクティブラーニング実践に取り組む
- (4) 地域連携委員会を中心に「ひだまり（松が丘地区）」における健康講話・健康相談を継続、および千葉東病院等、施設との連携による学生ボランティア活動を推進する。
- (5) 臨地実習において指導上配慮が必要な学生の情報共有を行い、一貫した指導を行う。
- (6) FD委員会を中心に看護学科教員勉強会を企画・実施する

3 取組状況

DO

- (1) 国家試験合格に向けた指導の徹底
 - ・低学年模試の実施など、下学年に対し国家試験合格に向けた意識づけを行った
 - ・4年生に対し、各領域教員による補習講義および国家試験対策講座（業者）を実施した
- (2) 成績低迷者や留年生への学修指導
 - ・低学年成績低迷者に対し課題を課し、学習習慣をつけるように働きかけ、直接指導した（学習支援委員会を中心に）
 - ・成績返却の際に個々の学生に対し面接を行い、勉強の仕方、ノートの作り方などを直接指導した（アドバイザー）
 - ・保護者会の際に、GPA2.0未満の学生保護者に面接を行い、来られない保護者には電話で学習環境を整えるよう協力を依頼した
- (3) ルーブリックの活用
 - ア 実習ルーブリックの活用
 - 実習ルーブリック「倫理的側面」「看護過程」を学生の自己評価に役立てた

イ コモンルーブリックの活用

同じ時期に複数のルーブリックを学生に課さないように調整・実施した

(4) 地域との連携協働事業の活性化

- ・「ひだまり（松が丘地区）」における健康講話・健康相談を継続して行った
- ・千葉東病院でのクリスマスコンサート、共生苑でのニューイヤーコンサートを行った（担当教員と学生厚生委員が連携して施設との調整を図った）
- ・松ヶ丘地区の各種行事において、学生ボランティアが活動した
- ・保健師課程学生が、千葉市と合同で「糖尿病ゼロプロジェクト」として取り組み、また、保健師課程の授業に千葉市保健師が参加されるなど連携活動が行われている

(5) 学生指導上必要な学生情報の共有

- ・臨地実習中の学生に発症した感染症の拡大を防止するため、情報共有システムを整備した
- ・感染者・濃厚接触者を的確に把握し、拡散防止に努めた
- ・毎月の学科会議の機会を利用し、臨地実習状況について教員間で共有した

(6) カリキュラムマップの作成

6・7月の勉強会は看護学科ディプロマポリシー策定に時間を費やしたため、カリキュラムマップ完成にはいたらなかった。

4 点検・評価**CHECK**

- ・ほぼ、Action Planのとおり活動を進めることができた
- ・学科教員全員が参加し、学科ディプロマポリシーの構築を行い、看護学科の目指す教育の方向性を共有できた
- ・実習ルーブリック（2種）の開発過程について、日本看護科学学会第36回学術集会（東京）における交流集会で全国の看護系大学教員に向け発信し、反響を得た。
- ・教員の産休・育休、退職等が相次ぎ、固定アドバイザー制度の維持が難しい等の理由からアドバイザー制度の見直しが必要である

5 次年度に向けた課題**ACTION**

- ・国家試験対策など、キャリア委員会とアドバイザーとが連携し、個別指導における役割を明確するとともに、密接に情報交換を行い、特に指導が必要な学生に対し、指導を徹底する
- ・アドバイザー制度を検討し、看護学科に適したアドバイザー制度を検討する

以上

2 教育課程②〔栄養学科〕

関連委員会	教務委員会、実習委員会、学習支援委員会、キャリア支援委員会
関連部署	教務、学生厚生、キャリア支援室
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

引き続き定員の確保、学力の向上、家庭料理技能検定とフードスペシャリスト試験の合格のための模擬試験・補講の実施、国試対策をキャリア支援委員会と共に進めたい。
さらに学科行事としてテーブルマナー、日帰り研修も27年度同様に行いたい。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 国家試験合格者を全国平均以上とする。
- (2) 就職率を100%とする。
- (3) 学生生活、学習上で注意が必要な学生への指導を行う。
- (4) その他の資格試験について、合格者を全国平均以上とする。
- (5) 新カリキュラムが問題なく実施できるように授業の計画をする。
- (6) 関連する科目間での授業内容の確認を行い、ディプロマポリシーとの整合性を図りながら社会で必要される管理栄養士養成を目指す。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 4年生についてはキャリア支援委員会と連携し情報を速やかに入手して、適切な学生支援を行う。1年次からの学習習慣や授業態度が国家試験勉強に影響するため、学習支援委員会との連携を図り、低学年からの学習を支援する。また、1年次から授業態度、欠席、提出物についての管理を徹底する。
- (2) キャリア支援委員会、キャリア支援室と連携しながら、アドバイザーを中心に就職相談などの就職支援を行う。低学年から将来への目標をつかめるよう、管理栄養士の活動をしている実践者との交流の機会を増やす。
- (3) 欠席が多い学生、授業態度に問題のある学生、コミュニケーションが苦手な学生などは、学科内で情報を共有し、授業など様々な場面での配慮と支援を行い、休学や退学者への減少と国試合格率、就職率の向上につなげる。
- (4) 1年次以上の家庭料理技能検定、3年次以上のフードスペシャリストの試験を実施している。受験希望者には試験対策を実施し、全国平均以上の合格率向上をめざす。
- (5) 新カリキュラムを実施できるよう、千葉キャンパス科目との調整、時間割の計画を教務と連携して計画する。
- (6) 完成年度が過ぎたため、関連科目間での授業内容を見直し、管理栄養士養成に向けての科目間の内容調整、整理の検討を始める。

3 取組状況

DO

- (1) 模擬試験、対策講座を実施した。栄養学科の教員による対策講座は前学期、後学期に実施した。低学年からの取り組みとして、学習支援委員会による1年生への寺子屋、学年別学習支援を実施した。また、実験・実習の出席管理を厳格に行い、遅刻者の取り扱いを定め、遅刻のない出席の習慣化を図った。
- (2) 4年生の就職活動や進学はキャリア支援委員会を中心に順調に進めた。
- (3) 学生生活や学習上での注意が必要な学生への指導はアドバイザーを中心に実施した。また、学科内での情報共有にも努めた。2年生前学期の成績において、D評価科目の多い学生につ

いては学部長、学科長による個別面談を行い、注意を促した。

- (4) 家庭料理技能検定では、調理学担当教員による試験のための補講を実施した。フードスペシャリスト試験では、問題集の購入の斡旋や試験勉強するようS-Naviを活用して促した。
- (5) 新カリキュラムによる問題は起きなかった。次年度からの履修規程の改訂を検討し、2年から3年次への進級時での要件を定めた。
- (6) 大学全体でのディプロマポリシーの改訂があったため、関連する科目間での授業内容の確認は、各自での確認に留めた。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 71人が受験し、合格者53人、合格率は74.6%であった。全国平均は54.6%、管理栄養士養成校新卒の合格率は92.4%であった。
- (2) 就職率は就職希望者の100%が内定した。2名が大学院に進んだ。
- (3) 注意が必要な学生については、学科会議で報告がされ学科全体での共有を行った。
- (4) 家庭料理技能検定3級は18人が受験、16人が合格した。フードスペシャリストは46人が受験、39人が合格した（合格率85%、全国平均は84%）。
- (5) 履修規程の変更について、前学期から約半年かけて検討を行い決定した。
- (6) 計画したがほとんど実施できず、各自の確認に留めた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・管理栄養士国家試験合格については引き続き、低学年からの学習とあわせ、学習支援委員会、キャリア支援委員会、アドバイザーと連携して学生支援を行う。
- ・学生生活や学習上での注意しなければならない学生については、アドバイザーからの指導に加え、学科内での情報共有に努める。
- ・次年度からの進級要件について、新入生への周知を徹底するとともに、日頃からの学習習慣の重要性を学生に伝えていく。

以上

2 教育課程③〔教務委員会〕

関連委員会	教職課程委員会、看護学科実習委員会、栄養学科実習委員会、教育向上委員会、キャリア支援委員会、学習支援委員会
関連部署	看護学科、栄養学科
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- 基本的には今年度と同様の取り組みを行う。
- 試験規定が大きく変更されたことから、どの学年に対しても新年度オリエンテーションで周知徹底する。
- 履修登録・再試験申請、シラバス確認による事前学習の徹底など、自律的行動ができるように新学期のオリエンテーションで徹底する。
- H28年度シラバスより第三者チェックが入り、全科目「事前学習」「事後学習」欄に記載されるようになったため、次年度はその具体性や学生への浸透度についてもみていく必要がある。
- 栄養教諭免許取得を目指す学生に成績低迷者が多いことから、教職課程委員会と連携して今後の対策を講じる。
- 成績低迷者への指導に関し、教務委員会の役割としては、学習支援委員会・キャリア支援委員会の活動上支援の必要性が生じたときに支援していくこととしたい。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- 1) 成績判定（単位認定）、また、進級・卒業判定を円滑に進める
- 2) 両学科とも臨地実習科目展開に伴う他科目運営への影響を最小限にとどめる
- 3) 定期試験、再試験が円滑に、かつ、公平に行われるようにする
- 4) 実施した新年度オリエンテーションを適切に評価し、より効果的なオリエンテーションとなるように次年度オリエンテーションを企画・運営する
- 5) 履修登録が円滑にいくように学生指導を徹底する
- 6) 教職課程委員会との連携を密にし、教職課程履修（希望）者の適正指導を行う

2 具体的計画

PLAN

- (1) 単位認定、進級・卒業判定に関して
 - 看護学科では前学期・後学期とも単位認定者会議（進級判定）を行い、必修科目の単位認定がなされなかった学生に対する指導・相談を適切に行う
 - 栄養学科では臨地実習履修可能者の判定を行う
- (2) 臨地習科目展開に伴う他科目への影響の最小化
 - 栄養学科3年生の臨地実習の分散（4月～12月）に対し、適切に補習計画もしくは公認欠席の措置をとると同時に、学習内容の補完ができるように指導する
 - 看護学科1・2年生の臨地実習（各1週ずつ開講期間）についても同様とする
 - 千葉第一キャンパスで行われる科目については公認欠席扱いとするが、欠席した授業内容の補完を自ら行うように助言する
- (3) 定期試験・再試験の適正実施
 - 今年度より改訂された試験規程に則って適正に試験を実施する
 - 不正行為の防止のためにオリエンテーションを徹底する
 - 再試験該当者から期日内に申請が行われるように事前オリエンテーション（S-Navi等の活用）を徹底する（嘆願書は受け取らない）

- ・再試験期間中に海外研修が重なるため、海外研修希望者の学業への取り組み状況を見極め適正に指導する
- (4) 新年度オリエンテーションの実施・評価と次年度の企画・運営
 - ・先輩アドバイザーの機能が最大限に発揮できるよう適切に活用する
 - ・各委員会と連携し、適切なオリエンテーション時間割を作成する
 - ・在校生に対し、学生便覧の追加修正事項が完全に伝達できるよう資料を適正に準備する
- (5) 履修登録が円滑にいくように指導を徹底する
 - ・履修登録方法及び期間について、オリエンテーションで徹底する
 - ・履修登録を適切に行えない学生がいた場合、(嘆願書廃止により) 学生指導を徹底し、学生自身が自らの行動の振り返ることを通し、行動修正できる機会とする
 - ・特に看護学科2年生は後学期授業開始2週目からの履修となり、履修登録期間が短いため、登録漏れがないように事前に周知しておく
- (6) 教職課程履修(希望)者の適正指導
 - ・教職課程履修者の学修状況を把握し、成績低迷者に対する指導を教職課程委員会と連携して行う

4 点検・評価

CHECK

- ・年度初めに立案したAction Planのとおり活動を進めることができた
- ・シラバスチェックは昨年と同様スムーズに行えた。その結果をH29年2月末に担当教員に返却し、担当教員による修正を経てH29年度シラバスをH29年3月に公開した
- ・試験中の不正行為に対する対処として大幅に試験規程を改定したが、不正行為が発生したため、今後は発生を抑止するための方策を講じる必要がある
- ・上記試験における不正行為発生の際、規程に則り厳正に対処したが、「筆記試験」を実施する科目と実施しない科目とで単位認定の扱いが異なることから、扱いを同一にするために規程を改定する必要がある
- ・栄養学科では実習科目とその他の開講科目が並行して行われ、かつさまざまな事由で実習日程が変更されたため、公認欠席の妥当性を確認するのに手間取った。事後に栄養学科実習委員会にまとめるよう協力を依頼したが、変更が分かった時点で届け出るシステム構築が必要である

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・栄養学科3年生の実習科目において、適正な公認欠席の管理が行えるように、栄養学科実習委員会に働きかけ、実習日程の変更があった時の申請・確認システムを確立する
- ・試験における不正行為を撲滅する
- ・H29年度よりシラバスに「事前・事後学習」の時間を明記しているが、学生が理解しやすく、学修行動に取り掛かれる内容になっているかのチェック(セルフチェック、第三者チェック)を充実させる
- ・栄養学科の再履修者をリスト化し、カリキュラム変更に伴った読み替えを正確に行い、学生に不利益のないよう、読み替え対応を周知する

以上

3 教育組織〔教育向上委員会〕

関連委員会	教育向上委員会
関連部署	
関連データ	2015年度（平成27）ファカルティ・ディベロップメント成果報告書（FD活動編）

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 授業アンケート
 - ・引き続き実施の徹底を図るため、教員・学生に協力依頼を適宜行う。
 - ・授業アンケートの保管管理の徹底を図る。
 - ・「卒業研究」終了時には、授業アンケートの配布を依頼する。
- (2) 教員研修

教育向上委員の能力開発のための研修参加については、早期から外部における研修会の開催についてキャッチして、参加に向けて日程調整を図る。
- (3) 授業公開

授業者、参観者両者の全員参加の徹底を図る。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 授業アンケートの適正かつ確実な実施
- (2) 大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」実現のために、ループリックの開発を促進・運営・評価
- (3) インタラクティブティーチングに関する教員研修、および教員の質向上に向けた教職員研修会の企画・実施
- (4) 授業公開の参加（授業者・参観者）に対する全教員（100%）の達成

2 具体的計画

PLAN

- (1) 授業アンケートの確実な実施

全学統一授業アンケート用紙を用いて全科目の授業アンケートを実施する。
- (2) 教職員研修の実施
 - ア 「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」の実現に向けた勉強会・研修会の実施
 - イ 学外講師による教職員研修会の実施
- (3) 教育向上委員の能力開発を意図した外部研修会等への参加
- (4) 授業公開の全教員参加
 - ア 全教員が授業者・参観者として、100%の達成

3 取組状況

DO

- (1) 授業アンケート

全学統一授業アンケート用紙を用い、全科目の実施を目標として100%の達成を得た。
- (2) 教員研修
 - ア 看護栄養学部によるFD・SD研修会の実施
 - ア) 学外講師による研修会「カリキュラムマップの概要と作成手順等の基本」
 - イ) 学内教員による研修会「－学生の主体的な学習を促す教授方法の工夫－」
 - ウ) 看護学科教員研修「大学3ポリシーと科目の整合性を図る」合計3回の実施
 - イ 大学間連携事業の研修：

「地域連携プログラムの展開とそのアセスメント手法」（TV会議方式）の実施

ウ 外部研修会への参加：年間7回（教育学会1回、アクティブ・ラーニング研修会3回、他3回）参加。研修会参加者には委員会において報告会を行い共有した

(3) 授業公開

- ア 全員参加（授業者・参観者とも）徹底を行うため、各教員に働きかけ、100%の達成
- イ アクティブ・ラーニングを実践している授業を“推薦授業”として働きかけた

4 点検・評価

CHECK

(1) 授業アンケート

28年度、活動計画案通りに実施できた。全学統一授業アンケートの評価を全学部合同会議において実施しており、アンケート評価の低い項目を分析し、各教員の意識を高めていく必要がある。また、教員研修会においても「授業方法の工夫」で得た成果を次年度発揮できるようにする。授業アンケートの実施は、事前配布を徹底する。

(2) 教員研修

ルーブリック開発に向けた研修会および教員活動は、計画通り実施できた。また、外部講師を招き研修会を実施できたことは今後の教育活動に生かせるものとする。さらに、教育向上委員の能力開発を意図した研修会への参加についても、目標は達成できた。

(3) 授業公開

全員参加（授業者・参観者とも100%）を目指し、今年度は達成できた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

(1) 授業アンケート

- ・引き続き実施の徹底を図るため、教員・学生に対し協力要請を適宜行う
- ・授業アンケートの事前配布の徹底を図る

(2) 教員研修

- ・ルーブリック以外の教員研修会として、適切なテーマについて検討する
- ・教育向上委員の能力開発のための研修参加については、早期から外部における研修会の開催についてキャッチして、参加に向けて日程調整を図る

(3) 授業公開

授業者、参観者両者の全員参加の徹底を図る

以上

4 学生支援①〔学生厚生〕

関連委員会	実習委員会、学習支援委員会
関連部署	看護学科、栄養学科、学生相談室、保健室
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

奨学金制度をよく理解させ継続的な勉学ができるように勧めること、犯罪被害防止、交通事故防止、栄養学科学生全体へのインフルエンザ予防接種の勧奨、ツイッターへ書き込みへの注意、携帯電話充電禁止などを徹底する。看護栄養学部として龍澤祭参加のあり方を検討したい、また休暇中などにおける海外渡航の実態等を把握する。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 休学・退学願等の把握と判定
- (2) 奨学金給付及び貸与者の適正な選考
- (3) 学生諸団体の活動上の指導
- (4) 龍澤祭への参加を促し、学生への支援を行う
- (5) 感染症対策と予防接種の勧奨
- (6) 千葉キャンパス学生厚生委員会との連携
- (7) 学生生活に関する指導を行う

2 具体的計画

PLAN

- (1) 休学・退学願の事由をより正確に把握するため、届出用紙を検討し、速やかな審議ができるようにする。休学・退学希望者の経済事情による事由には奨学金等の案内をし、休学・退学の減少を図る。
- (2) 淑徳大学の奨学金、及び日本学生支援機構奨学金について、目的に応じた選択ができるように指導を行うとともに厳選な選考に努める。日本学生支援機構奨学金の適格認定の「警告」者を減らすように学生指導を行う。
- (3) 諸団体の活動を把握し、事故等が無いように適切な指導を行う。また、千葉東病院でクリスマスコンサート、共生苑での「ニューイヤーコンサート」を支援する。
- (4) 龍澤祭へは原則として学部全員が関わることとし、支援を積極的に行う。実施に当たり、両学科より龍澤祭実行委員を選出して運営し、千葉キャンパスの学生厚生委員会及び龍澤祭実行委員会と密に連携する。
- (5) 学部の特性上、感染症を予防することは必須であるため、実習委員会と連携し予防接種の勧奨を積極的に行う。学生の健康維持増進のために、食生活や生活習慣についての指導や学内環境を整える。
- (6) 若樹寮の運営等について、千葉キャンパス学生厚生委員会と連絡を取り合い、共通理解を深め問題発生時などに対処する。
- (7) 引き続きSNS利用についての指導、ブラックバイト被害の予防、学部敷地内での禁煙の徹底、バス内でのマナー向上、交通事故の防止。

3 取組状況

DO

- (1) 休学・退学願等の届出書式を見直し、事由を記述式に変更した。
- (2) 奨学金の給付、貸与の選考には、GPAも参考にしながら客観的評価で判定を行った。
適格認定の「警告」に該当した学生には面談を行った。

- (3) 諸団体の活動は年度当初に把握し指導を行った。千葉東病院、共生苑でのコンサートの支援を行った。
- (4) 龍澤祭において「手浴」、「ナース服・白衣体験」「ミニレクチャー（栄養指導）」「スタンプラリー」を行った。
- (5) 実習委員会とともに「健康管理のしおり」を作成した。インフルエンザの予防接種は本学で接種が受けられるようにし、積極的に接種を勧めた。
- (6) 拡大学生厚生委員会を開催した。今年度は若樹寮の課題が多く取り上げられた。寮の説明について、第一キャンパスと第二キャンパスでの齟齬が生じていること、寮規程が整っていないことが明らかとなった。
- (7) スマートフォンゲーム使用の注意および夏休み前に学生生活についての指導を行った。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 28年度退学者は10名、休学者は17人であった。（2月末現在）
- (2) 淑徳大学給付奨学金は特別給付7人、一般給付6人、淑徳大学貸与奨学金は23人であった。いずれも適切に選考を行った。日本学生支援機構の適格認定審査による「警告」者は看護学科2人、栄養学科9人となり「警告」者を減らす必要がある。
- (3) 学生団体は5団体で、内訳は準認定団体2団体、届出団体3団体であった。
- (4) 龍澤祭の（学部のブース）実行委員は看護学科6人、栄養学科13人であった。
- (5) インフルエンザ予防接種の接種率は約60%であった。
- (6) 千葉第一キャンパスとの拡大学生厚生委員会は、2カ月に約1度行われ、情報共有が図られた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- ・龍澤祭、スポーツリクリエーションについて、千葉第一キャンパスと連携を図り、早めに連絡をとりながら、積極的な参加を図る
- ・看護栄養学部の寮生の比率が増えてきているため、学生厚生委員会の担当者を決めて支援を行う
- ・本年度から新たな学食（リラカフェ）が開店したが、利用者数が少なくならないよう、持続的な存続を見据えた支援をする

以上

4 学生支援②〔学習支援〕

関連委員会	学習支援委員会
関連部署	キャリア支援室
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- ・入学前学力確認テストだけでなく、入学時の学力確認テストでも専門業者が作成した問題を使用すべく準備中である。補習講座などに対し、専門業者や外部講師にどのように関わってもらえるべきかを引き続き検討する。
- ・CBTをさらに使いやすくするための具体策を検討する。栄養学科ではCBT関連テスト用の問題を集積する。
- ・補習講座への出席率を上げるための抜本的な方策を検討する。
- ・本委員会で実施すべきかキャリア支援委員会で行った方がよいのか決めかねる活動については、引き続き両委員会メンバーで話し合って判断していく。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 成績低迷者の基礎学力並びに成績の向上をはかり、GPA1.5以下の学生の割合を減らす。
- (2) 新入生対象の補習講座への出席率を90%以上にする。
- (3) 学習支援室の利用率を高める。
- (4) 寺小屋を実施する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 入学前セミナー時(12月)にテストを行い、各人の基礎学力の程度を把握させた上で、入学前まで課題学習させる。
 - * 新入生オリエンテーション時に基礎学力確認テストを実施し、その評価結果に基づき基礎学力をつけて欲しい学生をピックアップし、補習講座に参加させる。
 - * CBTまたはCBT類似テストを実施し、専門分野の知見を深めさせる。
 - * 看護学科低学年(1年生～3年生)の成績低迷者においては、学年ごとにグループ学習による学習支援プログラムを実施する。
 - * 栄養学科においては、成績低迷者に対する効果的な学習支援プログラムを立案し、そのプログラムの実施を試みる。
- (2) 講座の内容および実施方法を改善する他、学習支援室を積極的に活用すると共に「アドバイザー」とも連携しながら、出席率が目標値を上回るようにする。
- (3) 学生が利用しやすい曜日と時間帯を勘案しながら、開室日並びに開室時間を増やす。
- (4) 従来の子小屋の内容、時期、方法を検証した上で実施する。
- (5) 基礎学力確認テスト、入学前学習、補習講座、学習支援室などに対し、専門業者や本学教員にどのように関わってもらうかについて論議していく。

3 取組状況

DO

- (1) 入学時(4月:新入生)および入学前(12月:入学予定者)に、基礎学力を確認するためのテストを実施した。
 - * 看護学科では、2年次生、3年次生を対象に従来通りにCBTを実施した。
 - * 入学前セミナーを、本委員会主催を実施した。
 - * 看護学科低学年(1年生～3年生)の成績低迷者を対象に、学年ごとにグループ学習による学習支援プログラムを実施した。

- * 栄養学科においては、基礎学力が不足気味の4年生へのケアを中心に行った。
 - * 栄養学科では、e-ラーニングによる学習支援プログラムを次年度から実施できるようにすべく、各専門分野の基礎問題を担当教員に作成してもらった。
- (2) 入学時のテスト結果を参考にし、基礎学力の乏しい新入生(35名)を対象に、補習講座を実施した。
- (3) 学生の便宜を図るべく、開室日時や支援内容を工夫した。
- (4) 1年次生を対象に、学科別に後期に実施した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 入学時テスト(プレースメントテストすなわちアフターテスト)及び入学前(ビフォーテスト)共に、業者の問題を使用した。入学時テストの平均点は71点、入学前テストの平均点は59点であり、出題分野、難易度共に適切であった。
- * 5月中旬から6月中旬の土曜日に、午前中3時間×3日、計9時間新入生を対象に補習講座を実施した。出席率は85.7%であった。欠席者に対して補講を行った。補習講座最終日の最終時間に確認テストを実施し、成績の振るわない学生を集めてテスト解説を行った。これらの工夫により補習講座への出席率は100%になり、目標をクリアできた。
 - * CBTは、従来のシステムに改良を加えて活用しやすくした。e-ラーニングにつなげるべく検討中である。
 - * 入学前セミナーは、「入学までの数か月を、学習面を含めてどのように過ごすべきかについての指針が得られる行事」として、例年同様、入学予定者から好評を得た。
 - * 看護学科において成績低迷者を対象にしたグループ学習において、どの学年においてもほとんどの対象者が参加した。
- (2) 学習支援室の有効活用を図るため、前期は毎週木曜日8時間および金曜日3時間程度、後期は毎週木曜日3時間程度開室した。呼び出せばどの学生も足を運ぶものの、自主的に質問に来る学生は多くはなかった。
- (3) 看護学科では、従来通りに基礎学力をつけてほしい学生を対象に、寺子屋として7コマ実施した。一方、栄養学科では、「自ら進んで学習する習慣を身につけること」を目標に掲げ、基礎科目担当の教員の協力を仰ぎながら、1年次生全員を対象に15コマ実施したが、出席率は50%程度であった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- * 入学前および入学時の基礎学力確認テスト、補習講座、学習支援室などに対し、専門業者や本学教員にどのように関わってもらうかについて、継続的に議論する。
- * e-ラーニングを、平成29年度当初から運用できるようにすべく準備中であり、誰もが利用しやすいシステムにしていく。
- * 学習支援室を利用したり、寺子屋に参加せざるを得ないような雰囲気クラス全体にもたやすための方策を種々検討する。

以上

5 就業支援

関連委員会	キャリア支援委員会
関連部署	
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

ア 看護学科

- ・学習低迷者には、過年度生およびGPA下位者が多く、国家試験合格に向けて、十分な個別支援、少人数制の学力強化クラスの開講が必要である。
- ・看護学科の模試結果は常に上位校に位置しているが、成績上位者と下位者の間には相当な乖離があると考えられ、この差を埋めていくためには低学年からの学習支援が不可欠であると考えられる。今後も学習支援委員会との連携が必要である。

イ 栄養学科

- ・初年度生のため手探りで国家試験対策を行ったが、予想以上に国家試験対策講座、模擬試験の出席率が低かった。国家試験対策講座に出席しない学生には学科長から保護者への文書（6月）、学部長も同席した保護者との面談（9月）を実施し、毎回、欠席者には連絡をいれたが効果は低かった。講座欠席者は模擬試験の受験回数も少なく、また受験しても点数は低い傾向にあったため、全員が出席するように低学年から周知することが課題である。
また、学習習慣が身につけていないと思われる学生が多く、模試の「受けっ放し」、講座後の復習がされていないことが観察された。学習習慣を定着させるために学習支援委員会の支援にとどまらず、低学年から学習習慣を身につけるよう支援していく必要がある。
- ・4年次は千葉キャンパスの選択科目を履修しているため、全員が参加できる日程を設定することが難しく、国家試験対策講座の開催に苦労した。今後は千葉キャンパス科目の履修指導を行い、国家試験対策講座の日程を確保する必要がある。
- ・就活は学生の活動開始が遅かったように思われ、年末になってから動き始めた学生もいた。3年次の3月から活動できるような就活支援を授業と合わせて計画する必要がある。
今後は学習委員会、実習委員会、教務委員会および学科との連携を図り、効率のよい国試対策、就職支援対策が必要である。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

(1) 国家試験対策

国家試験合格率を看護師、保健師とともに100%、管理栄養士は管理栄養士養成校新卒全国平均以上とする。

(2) 就職・進学支援

- ・就職希望者の就職内定率を看護学科、栄養学科ともに100%とする
- ・進学希望者の支援
- ・公務員就職希望者の支援

2 具体的計画

PLAN

(1) 国家試験対策

看護学科において、国家試験模擬試験（看護師5回、保健師3回、受験率100%）、対策講座（外部講師・学内教員、出席率100%）を実施し、合格への支援をおこなう。学生からなる国家試験対策委員による主体的な学習体制をとる。栄養学科において、国家試験模擬試験（月1回）、対策講座（専門業者、学科教員）を実施し学習支援を行う。3年生対象に模試実施し、学習習慣獲得を図る。

(2) 就職・進学支援

学生の就職希望先にあった支援を行う。ES記入や面接対策はキャリア支援センターの活用を勧め、第2キャンパスでの実施体制も整える。随時就職状況の把握、マナー講座、学内就職合同説明会、筆記試験対策、キャリア懇談会など実施する。進学希望者の把握と受験対策を教員と連携して行う。公務員試験対策講座を実施する。

3 取組状況

DO

(1) 国家試験対策

看護学科では、模擬試験（看護師5回、保健師3回）、対策講座（外部講師－看護師29コマ・保健師6コマ、学内教員）個人面談、学力強化学生への支援を実施した。学生の国家試験対策委員による主体的な学習体制を支援した。栄養学科では模擬試験（13回）、対策講座（週3日火木金1～4限、専門業者、学科教員）、低迷者への特別強化クラス、実戦演習を実施した。3年生には模試2回（10月、2月）を実施した。

(2) 就職・進学支援

第2キャンパスでのキャリアカウンセラー相談日の開設、キャリア支援室開室時間を延長して、就職相談支援体制を整えた。随時就職状況の把握、マナー講座・学内就職合同説明会（看護学科）、筆記試験対策・就活国試懇談会・キャリア支援ガイダンス・面談（栄養学科）を実施した。進学希望者の把握と受験支援を実施した。外部講師による公務員試験対策講座（9コマ）を実施した。

4 点検・評価

CHECK

(1) 国家試験対策

国家試験合格率は、看護師新卒96.07%（98/102名）、保健師新卒100%（21/21名）、管理栄養士新卒74.6%（53/71名）であった。

(2) 就職・進学支援

就職希望者の就職率は両学科共に100%であった。進学希望者の進学率は100%で、助産課程2名（看護）、大学院2名（栄養）であった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

国試対策について、看護学科では従来の支援・対策方法を変える可能性も踏まえて対策を講じる。栄養学科では、国試実施が3月初旬となるため早めの対策が課題である。学習支援委員会との更なる連携強化を図り、4年次前までに学習習慣を身につけるよう支援する必要がある。就職支援では、看護師就職においても買い手市場への変化に対応すべく全員対象としたESや面接対策を考える。栄養学科では様々な業種の就職先に対応したアドバイスができる専門的知識をもつスタッフの役割が重要である。

以上

6 研究活動〔研究公開〕

関連委員会	研究公開委員会
関連部署	
関連データ	淑徳大学看護栄養学部紀要「第9号」

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 紀要について
今年度は投稿者が少しでも時間的な余裕が持てるように、発行日を遅らせ、原稿締め切り日を例年より半月遅らせて便宜を図った。次年度も今年度と同様のスケジュールで進めてもよいと思われる。
- (2) 研究報告会について
- ・本年度と同様に、早期に開催日時を決定し、参加を促す必要がある。
 - ・開催日時は今年度も参加しやすい日程、時間帯を選んだつもりであったが、さらに検討して決定する必要がある。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 淑徳大学看護栄養学部紀要「第9号」を発行する。
- (2) 看護栄養学部「研究報告会」を開催する。
教員の出席率については75%を目指す。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 紀要について
- ・なるべく原著論文投稿を促す。
 - ・発行は年度内とする。
- (2) 研究報告会について
「研究報告会」を本学部全体の行事としてとらえ、年度当初に決定する。
開催時期は教職員、学生が参加しやすい時期とする。

3 取組状況

DO

- (1) 紀要について
昨年度に引き続き、淑徳大学看護栄養学部紀要「第9号」の発刊予定日については、投稿者の便宜を図り、原稿の締め切り日を昨年より約半月遅らせ、発刊は今年度中に行うということとした。
原著の査読は、2回とした。
- (2) 研究報告会について
第3回研究報告会は平成28年8月5日（金）15：40より開催した。発表対象者としては、基本的には学内外の研究助成金を受けた教員とした。しかし、対象教員の中には個人的な都合による辞退の申し出があり、本来対象教員にはならない教員にも依頼した。発表者は看護学科から小坂橋恵美子准教授、栄養学科から飯坂真司准教授であった。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 紀要について
淑徳大学看護栄養学部紀要「第9号」を発刊できた。構成としては、研究報告7編、実践報告1編となった。本年度の紀要には原著論文を掲載することはできなかった。原著論文がなかったのは残念ではあるが、学会誌としての認知度を上げるためにも更なる努力が必要と考える。

(2) 研究報告会について

今年度は看護学部他施設による学生の会と日時が重なったため、学生、引率教員が出席できず、出席目標が達成できなかった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

(1) 紀要について

2年前から投稿者が少しでも時間的な余裕が持てるように、発行日を遅らせ、原稿締め切り日を例年より半月遅らせ11月8日として投稿の便宜を図った。次年度も今年度と同様のスケジュールで進めてもよいと思われる。

(2) 研究報告会について

- 本年度と同様に、早期に開催日時を決定し、参加を促す必要がある。
- 開催日時は今年度も参加しやすい日程、時間帯を選んだつもりであったが、さらに検討して決定する必要がある。

以上

7 社会貢献〔地域連携委員会〕

関連委員会	地域連携委員会
関連部署	
関連データ	平成27年度淑徳大学看護栄養学部「ボランティア講座活動報告書」

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 地域との協働連携事業の継続し、地域住民の健康意識を高める。
 - ア 協働事業（ふれあい広場ひだまり）の健康講話・健康相談の継続
 - イ 地域行事・地域活動への計画的参加、成果を高める。
- (2) ボランティア講座の効果的な運営
- (3) 量と質の向上をめざしたボランティア講座の検討
- (4) 地域連携委員会活動における地域・教職員・学生への情報発信の強化

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- 1) 地域との連携強化を図る。
 - ① 松ヶ丘地区との協働連携事業である、「ひだまりにおける健康教育」を毎月第1第3月曜日に実施し、地域住民の健康意識の向上を図ることができる。
 - ② 千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘にて健康講話を導入し、健康教育相談の活動範囲を広げる。
 - ③ 松ヶ丘地区行事・地域活動への計画的参加を図り成果を高める。
- 2) ボランティア講座の効果的な運営を図り、受講登録者の60%以上の学生が修了する。
- 3) 本学の地域連携活動における地域・教職員・学生への情報発信の強化し、活動内容の浸透を図る。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 地域との連携強化を図る。
 - ア 「ひだまり」における健康教育を月2回実施する。住民の高い参加率を維持する。
 - イ 学生ボランティアを計画的に進め、特に前期の参加率を高めるための働きかけを行う。
 - ウ ボランティア体験での学びについて、学生と主催者による話し合いの場を設ける。
 - エ 地域における定例会議（地域運営会議、地区部会等）へ出席し大学の知名度を上げる。
- (2) ボランティア講座の効果的な運営を図る。
 - ア ボランティア活動の場を開拓し、受講学生のニーズに即した場を提供する。
 - イ 学生のボランティア実践において、地域との連携を密に図り、協働参画を促す。
 - ウ 外部講師、担当教員間、事務部との連携を図り、スムーズな講座運営を行う。
 - エ 活動状況を内外に発信できるよう、年度末に活動報告書を作成する。
- (3) 情報発信の強化、活動内容の浸透
 - ア 学内教職員、学生に向けて、活動内容のタイムリーな周知、PRにつとめる。
 - イ 大学の活動を、地域会議、連携事業HP、地域新聞で紹介するほか諸施設へもPRする。

3 取組状況

DO

- (1) 地域との連携強化を図る。

「ひだまり」における看護栄養学部教員による健康教育（健康栄養講話・健康相談）は合計13回実施した。ひだまりの参加者数は362名（平成29年2月末現在。1回平均約28名）であり、継続を要望されている。さらに本年度は松ヶ丘あんしんケアセンター主催星久喜町南部カフェでの健康講話を2回（12月、1月）実施した。地域における定例会議には欠かさず教員が出席し、住民とのいっそうの信頼関係を築いている。

(2) ボランティア講座の効果的な運営を図る。

今年度のボランティア講座受講希望者は61名（看護39名・栄養22名）であり、修了生（修了要件6回出席）は26名（看護13名・栄養13名・修了率43%）である。ボランティア講座は講義、ゼミナール、ボランティア実践で構成し、実践は主に松ヶ丘地区の行事のほか大学周辺の病院、幼稚園、いきいきプラザなどで実施（実践の実件数19件）した。要請されたボランティアの86%に学生が参加した。ボランティア講座の充実をめざし、教員による事前の打ち合わせ、学生への周知・確認、実施後の学生の活動報告・教員の報告の一連の作業をシステム化した。さらに教員が実際の活動の場に出向き、学生の活動を支援した。

(3) 地域連携活動における情報発信の強化、活動内容の浸透。

松ヶ丘地区のHP及びひだまり新聞に本学の取り組みを掲載していただいたほか、「ボランティア講座地域連携事業報告書」に健康教育等の地域支援事業も掲載し、大学内外および関連施設へ配布・周知した。

4 点検・評価

CHECK

「ひだまり」における地域住民への健康教育に対する住民からの支持は高く、次年度も地域の期待に添えていきたい。本年度もうけた学生ボランティアと主催者側との話し合いの場は、双方に有意義であった。しかし、ボランティア講座の修了率は登録者の43%（日標値の60%）で、予定されていた事業の中止や、一部の事業に学生の希望が集中したことなどが理由としてあげられる。なお、学生が体験を重ねていく中でボランティア精神が生まれ、充実した活動になっていったことは、学生のレポートや主催者評価から示される。

学生ボランティアの要請は増えており、学生の活動を支援していきたい。今後は学生の実践意欲の継続に向けた働きかけや調整、修了率の向上に向けた講座のあり方について検討していく必要がある。

5 次年度に向けた課題

ACTION

(1) 地域との連携強化をはかる。

ア 松ヶ丘地区との協働連携事業を継続する。

イ 千葉市あんしんケアセンター松ヶ丘との連携を進める。

ウ 学生・教員と地域住民との交流の機会を増やし、相互理解を進める。

(2) ボランティア講座登録学生の60%を修了に導くとともに、講座のあり方についての検討に着手する。

(3) 教職員・学生・地域住民間において、地域連携に関する情報共有・発信を進める。

以上

8 図書室〔千葉第二〕

関連委員会	図書室運営委員会
関連部署	
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 選書時期の遅れをなくし、計画的な選書の実践へ向けて、各月ごとに選書内容をまとめる。
- (2) 読書カードの推進と、さらに魅力的な企画展示などの実施。
活用できないビデオテープの除籍、活用できるビデオテープはDVD化を検討する。
- (3) on line systemの活用の推進。
- (4) 看護学科大学院設置に向けての、図書室拡張と大学院生の閲覧時間の検討。
書架スペースの拡張とラーニングコモンズ設置が実現し、図書室面積は約25%増床となる。
拡張部分へ視聴覚ブースを移設。視聴覚資料収納棚を新設する。蔵書可能冊数は、約9000冊増加の見込みで、書籍配置も変わる予定である。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- 1) 平成27年度の図書選書予算に基づき、図書と視聴覚資料の選書・購入を適正に行う。隔月ごとに、現状の報告を実施する。
- 2) 図書の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに充実したものとする。
- 3) on line systemの活用を図る。
- 4) 大学院生の図書利用へ向けての検討。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 図書の選書・購入
 - ア 看護学科は総予算額500万円（選書300万円、蔵書調整200万円）、栄養学科は総予算額400万円（選書300万円、蔵書調整100万円）となる。
 - イ 専門図書の内覧会を2回実施する予定である。
- (2) 環境整備
 - ア 図書の環境整備
 - ア) 平成28年度開学の看護学科大学院の開講にむけての環境整備を実施する。
 - イ) 視聴覚教材の保存の検討の推進。
 - イ 学生の図書利用の充実
 - ア) 学生の図書の活用の推進。
貸し出し冊数は、一人当たり看護学科学生3冊/月、栄養学生1冊/月を目標とする。「読書ポイントカード」の利用も推進する。
 - イ) 「期間限定のテーマやトピックス」に基づき、企画展示の提案を行う。
 - ウ) 実習期間に合わせた閲覧時間の延長や開館の実施を引き続き検討する。
- (3) on line systemの活用へ向けて、説明会の実施と学生参加を推進する。
- (4) 大学院生の図書利用の充実へ向けて、図書の充実と、図書利用時間延長の検討。

3 取組状況

DO

- 蔵書冊数は、平成28年2月1日現在全体数37,421冊である。
(内訳：図書36,057冊、視聴覚1,260点、電子ブック104点)
- (1) 図書選書予算に基づき、図書と視聴覚資料の選書・購入を適正に実施した。ほぼ隔月ごとに、現状の報告を実施した。

- ア 外国雑誌値上がりへの対応のために各学科予算合計100万円を購入予算に充てた。
- イ 栄養学科購読雑誌の見直しで、すべて電子ジャーナルへ切替えた。
- ウ 専門図書の内覧会を6月23、24日と11月24、25日に実施した。

(2) 図書の環境整備向上と学生の図書利用の充実

ア 図書の環境整備

- 大学院看護研究科の開講にあたり、増床(467㎡→611㎡)した。
 - ・収容冊数は59,000冊から66,150冊に増加し、配置が再整備された。
 - ・視聴覚ブースを移設し、視聴覚機器類を新機種に入れ換えた。

イ 学生の図書利用の充実

- ア) 貸し出し冊数は、看護学科平均2.24冊、栄養学科平均0.84冊であった。
- イ) 実習期間に合わせた閲覧時間の延長や開館の実施が行われた。

(3) on line systemの活用を推進するためのガイダンスを4～5月に5回実施した。

(4) 大学院生の図書室利用へ向けて充実を図った。設置予算で図書、電子ブック、雑誌を購入。夜間開室の継続。他館への紹介状発行を開始した。

(5) ラーニングコモنزの運用を開始した。

4 点検・評価

CHECK

大学院開学に伴って図書室が25%増床になり、書籍の配置も工夫され、視聴覚ブースが移設され、環境整備は進んでいる。

- (1) 平成28年度の図書と視聴覚資料の選書・購入を適正に実施した。ほぼ隔月ごとに、現状の報告を実施した結果、例年より選書が順調に進んだ。
- (2) 学生の図書利用は増加傾向にはあるが、まだ目標には達していない。他学の利用状況よりは多いとの評価もあった。学内展示などの活用が更に望まれる。
- (3) on line systemの活用を推進するためのガイダンスは例年よりも充実してきた。まだ低学年生へのガイダンスの機会が不十分であった。
- (4) ラーニングコモنزの運用に関しては、委員会内で企画内容などを吟味中である。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 適正な選書の実践
- (2) 図書室の環境整備と、学生の図書利用の向上
- (3) 教育場面での図書利用の推進を図る
- (4) On line system の活用の推進
- (5) ラーニングコモنز活用へ向けて

以上

9 自己点検・評価

関連委員会	自己点検評価委員会
関連部署	
関連データ	

平成27年度大学年報

【次年度に向けた課題】

- (1) 次年度も継続し、各学科、各委員会の活動にPDCAサイクルを実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
- (2) 次年度は、平成27年度までの目標の達成度を検討し、さらに今後の学部の目指す方向性の明確化を図る必要がある。
- (3) 次年度は、28年度新入学生から栄養学科の新カリキュラムが始まる。ディプロマポリシーが達成できるカリキュラムになっているか、カリキュラム委員会との連携により、点検評価をはじめめる。
- (4) 大学年報は、大学のビジョンの実現に向けてその点検評価を行い、次年度の活動方針の確認のために重要であるため、全学計画に沿って編集作業を行う。

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 各学科、各委員会の活動にPDCAサイクルを継続し実施するとともに、活動内容が学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化に寄与しているか点検評価する。
- (2) 年度目標・成果指標を全教職員に提示し、平成28年度目標達成に向けて学部の目指す方向性の共有を図る。
- (3) 栄養学科では、28年度新入生から新カリキュラムが開始されるため、ディプロマポリシーが達成可能なカリキュラムとなっているか、カリキュラム検討委員会と連携し点検評価をはじめめる。
- (4) 大学年報の看護栄養学部（千葉第二キャンパス）の原稿執筆・編集作業を行う。

2 具体的計画

PLAN

- (1) ア 各学科、各委員会より、4月末日を目標に活動計画を提出させ、自己点検評価委員会で点検を行う。学部学科の年度方針と合致しているかについて各学科、各委員会と調整し、5月の教授会にて報告する。
イ 各学科、各委員会から2月末に報告書を提出させ、自己点検評価委員会で点検評価し、3月の教授会で報告する。
- (2) ア 平成28年度の教育目標、成果目標を5月の教授会で提示し、周知徹底を図る。
イ 年度末に今年度の目標達成度を評価し、次年度の目標を設定する。
- (3) 前期終了時、年度末にカリキュラム変更の成果と問題点について検討評価を行うようカリキュラム検討委員会に依頼する。
- (4) 平成27年度の大学年報の看護栄養学部（千葉第二キャンパス）の執筆にあたり、各学科、各委員会に執筆依頼をし、原稿の取りまとめを行う。その際大学年報は大学自己点検評価の一環として、PDCAの取り組みを公表するものであるため、内容を点検評価し、完成度の高い年報となるよう努める。

3 取組状況

DO

- (1) ア 各学科、各委員会の活動計画は、新委員会メンバーにより5月中にすべて提出された。本委員会で今年度の学部学科の方針と一致しているかについて点検し、各学科、各委員会と調整した後、6月の教授会で提案し、了承された。

- イ 活動計画書に基づく活動報告書は2月末までに提出され、その後、報告結果を本委員会で点検評価する。
- (2) ア 教育・研究・管理運営に関する目標・成果指標については、4月の教授会にて学部長より平成28年度教育目標と成果目標を提示した。
- イ 年度末に今年度の目標の達成度を評価し、来年度の目標について本委員会で検討する。
- (3) 看護栄養学部における2学科のディプロマポリシー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーについて、全学的な取り組みの中、検討され決定された。
- (4) 平成27年度の大学年報の看護栄養学部（千葉第二キャンパス）の部分の執筆を各学科・各委員会に依頼し、原稿の取りまとめを行った。今年度は9月に発行した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 計画通り実施され、各学科、各委員会の活動におけるPDCAサイクルを確立し、スパイラルアップすることができた。
- (2) 計画通り実施し、学部の目指す方向性の共有を図ることができたと考える。
- (3) 3つのポリシー作成については、学科、教務委員会、カリキュラム検討委員会等教職員が協力し、作成することができた。
- (4) 年報編集作業は、計画に従って進められ、予定期日の発行ができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 次年度も各学科、各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
- (2) 次年度は、平成28年度までの目標の達成度を検討し、さらに今後の学部の目指す方向性の明確化を図る。
- (3) 学科、各委員会の活動評価を数値化し、向上度が明確となるよう自己点検評価委員会の役割を果たす。
- (4) 年報編集作業を、計画に沿って進め予定期日に発行できるよう準備する。

以上

平成28年度 千葉第二キャンパス（看護学研究科）レビュー

1. 平成28年度振り返り

【看護学研究科】

●学生募集（取組み、成果）

初年度の入学生は5名（定員5名）で、定員を確保できた。今年度は7月に看護学研究科開設式を開催し、学外から61名の参加があり、多くの方々の看護学研究科にける期待を感じた。また、入試説明会を2回行い、大学院パンフレットを学部卒業生の1～3期生と近隣の医療施設関係者に送付した。平成29年度の入学者は6名（1名増）であった。

●正課活動（取組み、成果）

高度な専門性を有した人材として必要となる理論的知識と応用的能力が体系的に身につくよう授業科目を配置した本研究科のカリキュラムに沿って、滞りなく授業が展開された。授業の中で学生の成長を感じられたとする教員が多かった。

後学期より「看護学特別研究」が開始され、研究の指導が始まった。2年間コースの学生の研究に対する主査・副査を決定し、2月に研究計画発表会が行われ、他領域の教員からも活発に質問や意見が出された。

●諸規程の整備

看護学研究科の委員会に関する規程として、研究科委員会で審議の上、「淑徳大学大学院看護学研究科委員会規程」、「淑徳大学大学院看護学研究科自己点検・評価委員会規程」及び「淑徳大学大学院看護学研究科教育向上委員会規程」が決定され、各構成員についても決定された。学生に関わる規程として、研究活動・教育活動の推進に役立たせるために「淑徳大学大学院看護学研究科学生研究費補助規程」、「淑徳大学大学院看護学研究科教育助手補規程」を整備した。

●学習環境の整備

学生5名のうち4名が3年制長期コースを選択し、承認した。開設1年目ということもあり、年度当初は学習環境として未整備な部分もあったが、院生共同研究室の備品、学生の在室時間、図書室の利用可能時間の延長、統計解析ソフトの導入、教室の備品および静穏な環境保持等の整備が進められた。

2. 次年度への課題、方策

- (1) さらなる広報活動の実施
- (2) 平成30年度からのカリキュラム改正および教員組織編成の検討
- (3) 研究指導および審査体制の構築（指導教員、主査・副査等）
- (4) 将来構想検討会の活動開始

以上

1 学生の受け入れ（在籍管理）

関連委員会	看護学研究科委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 平成29年度の看護学研究科看護学専攻の入学定員5名の確保と適切な入学試験の実施に努める。
- (2) 本学に看護学研究科が設置されたことを卒業生や近隣地域の看護職者に向けて周知するべく、広報活動を実施する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 入学定員の確保と適切な入学試験の実施
 - ア. 入学定員の確保

設置2年目となる平成29年度の看護学研究科看護学専攻の入学定員5名を確保するため、広報活動に力を注ぐ。
 - イ. 適切な入学試験の実施

平成29年度入学試験要項の作成は、7月配布を目指し、編集・校正作業を行う。
入学試験は昨年度と同様、今年度も2回の入学試験を行うこととし、それに先立ち資格審査および事前相談を行う。実施要領を作成し、滞りなく適正に実施するよう留意する。
- (2) 広報活動の実施
 - ア. 看護学研究科開設式の開催

看護学研究科の開設式を7月に開催することとし、学内外に対し告知や周知、ひいては学生募集の一助とすべく、講演会開催を含め、検討・準備を行う。また、併せて入試相談会も同時開催する。
 - イ. 看護学研究科入試説明会の実施

看護学研究科入試説明会を7月28日の開設式当日および10月22日（土）に開催する。
 - ウ. 看護学研究科のパンフレットおよびホームページの作成

看護学研究科パンフレットは7月配布を目指し、編集・校正作業を行う。ホームページには、看護学研究科に関する情報を素早く掲載されるよう、広報への依頼を密に行う。

3 取組状況

DO

- (1) 入学定員の確保と適切な入学試験の実施
 - ア. 入学定員の確保

第1回入学試験においては3名受験し、3名合格した。第2回入学試験においては4名受験し、3名合格した。合わせて6名が入学手続きを完了した。
 - イ. 適切な入学試験の実施

第1回入学試験は平成28年10月1日（土）、第2回入学試験は平成29年1月28日（土）に実施した。第1回は3名全員が一般入試、第2回は4名全員が推薦入試であった。
また、平成30年度看護学研究科の入試日程について決定した。
- (2) 広報活動の実施
 - ア. 看護学研究科開設式の開催

淑徳大学大学院看護学研究科開設式・記念講演会・懇親会を平成28年7月28日（木）に開催した。参加者は学外から61名（看護職者は42名）、学内教職員を含めると108名であった。記念講演会は、本大学院の陣田泰子教授による講演「大学院における看護管

理学私案」が行われた。懇親会は3号館のカフェテリアで行われた。

イ. 看護学研究科入試説明会の実施

看護学研究科入試説明会は、第1回目は7月28日の看護学研究科開設式懇親会内にて開催し、在校生に対する直接の相談が数名あった。10月22日の入試説明会はラーニングコモンズにて実施し、1名の参加があった。

ウ. 看護学研究科のパンフレットおよびホームページの作成

看護学研究科のパンフレットは、開設式開催時に参加者へ配布し、看護学科卒業生（1～3期生）へ大学院看護学研究科案内文書とともに送付した。また、実習施設への配布にも努めた。

4 点検・評価

CHECK

(1) 入学定員の確保と適切な入学試験の実施

5名の入学定員を1名上回る結果となった。2回の入学試験はいずれも実施要領に基づき、滞りなく適正に行われた。

科目等履修生は昨年度より1名減り、2名となった。科目等履修生はその後の研究科への入学につながる可能性が高いため、もう少し増やす努力が必要である。

(2) 広報活動の実施

看護学研究科開設式は予想を超える参加者を迎え、盛大にとり行うことができ、本学に看護学研究科が設置されたことを近隣の看護職者の方々に十分アピールできた。

入試説明会は2回行ったが参加者が思いのほか少なかった。もう少し参加者が増えるような工夫が必要である。

5 次年度に向けた課題

ACTION

(1) 今年度は入学定員を確保できたが、今後に向けてさらに広報活動に力を入れる必要がある。

来年度の入試説明会は学部オープンキャンパスと同時開催とし、大学院の存在を強くアピールする場とし、受験生増加を目指す。

(2) 看護学研究科の情報をホームページに掲載するタイミングが遅くなる傾向があるため、大学広報との連携を密にしていく必要がある。

(3) 科目等履修生の募集について、選考期間が遅く短期間であるため、次年度以降は新入生が履修予定の科目を早い時期にホームページに公開し募集を行い、3月までに選考を行う方向での検討が必要である。また、科目等履修生の増加に向けた活動を検討する必要がある。

以上

2 教育課程

関連委員会	看護学研究科委員会、看護学研究科教育向上委員会
関連部署	
関連データ	看護学研究科大学院要項（平成28年度）

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 本研究科看護学専攻の教育研究目標は、看護学に関する専門的な知識を修得し、その学びを社会的・学問的要請に応じて適切に適用し、展開する研究能力を培い、これらを基盤として、地域社会の保健・医療・福祉の発展に資する実践的な運用力を養うことである。
- (2) 学生の看護に関する課題を見出し、自らの研究課題について科学的に探究する能力を養う。

2 具体的計画

PLAN

(1) 授業展開

看護学分野に関するより高度な専門的知識と応用的能力を獲得するとともに、看護学研究に必要な手法や能力を身につけることにより、看護の実践と研究の推進、人材育成を行う人材を養成するため、「基礎科目」、「看護展開科目」、「看護管理科目」、「地域連携・協働科目」、「研究指導科目」の各科目群を設け、高度な専門性を有した人材として必要となる理論的知識と応用的能力を体系的に身につけることが可能となるよう授業科目を配置し、授業を展開していく。

(2) 研究指導

後学期より一貫した演習形式による研究指導を行い、研究成果を修士論文として完成させるまでのプロセスの指導を開始する。

3 取組状況

DO

(1) 授業展開

前学期の開講科目は9科目、後学期は8科目であった。科目履修については4月の新生オリエンテーションの際に説明し、学生は各自の在籍予定年数に合わせて適切に履修登録を行い、滞りなく授業が展開された。

(2) 研究指導

4月に各学生の指導教員1名を決定した。後学期より「看護学特別研究」の履修が開始され、研究の指導が始まった。2年制コースの学生1名の研究に対する主査・副査を12月に決定し、2月に研究計画発表会が行われた。また、来年度の研究倫理委員会の日程調整と研究指導スケジュールの見直しを行った。

4 点検・評価

CHECK

(1) 授業展開

少人数の授業の利点が十分に活かされ、密度の濃い授業が展開されたようである。学生からのプレゼンテーション、それに対するディスカッションを中心に進められる授業が多く、学生も真剣に取り組む姿勢が見られ、教員も充実感を感じている者が多かった。より高度な専門的知識と応用的能力の獲得という目標の達成度は今後の学生の成長をみての判断となるが、この1年間の授業の中だけでも学生の成長を感じられたとする教員が多かった。

(2) 研究指導

大学院開設1年目ということもあり、研究スケジュールの具体的日程の決定がやや遅くなり、学生には先の見通しがもてなかった面があったかもしれない。しかし、今年度の予定は滞りなく進み、2月の研究計画発表会では他領域の教員からも活発に質問や意見が出され、学生の学びになったと思われる。

- (1) 平成30年度からのカリキュラム改正および教員組織編成の検討
- (2) 研究指導および審査体制の構築（指導教員、主査・副査等）

以上

第1部

III 学部・研究科等による取組み

2 千葉第二キャンパス

3 教育組織

関連委員会	看護学研究科委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 看護学研究科の各委員会規程、各委員会構成員の整備
- (2) 授業アンケートの適正かつ確実な実施

2 具体的計画

PLAN

- (1) 看護学研究科の各委員会規程、各委員会構成員の整備
 - ア. 各委員会規程の整備
看護学研究科委員会規程（案）を研究科委員会に提示し、審議の上決定する。
 - イ. 各委員会構成員の整備
看護学研究科として新たに各種委員会の設置の必要性について検討し、整備していく。
- (2) 授業アンケートの適正かつ確実な実施
学部とは異なる看護学研究科独自のアンケート用紙を作成し、前学期授業終了時と後学期授業終了時に実施する。配布・回収方法を検討し、アンケート結果の教員と学生へのフィードバックの方法についても検討し、実施する。また、教員へのアンケートにより自身の授業に対する振り返りを行う。

3 取組状況

DO

- (1) 看護学研究科の各委員会規程、各委員会構成員の整備
 - ア. 各委員会規程の整備
「淑徳大学大学院看護学研究科委員会規程」が研究科委員会に提示され、審議の上、決定された。また、その他の大学院規程については、「淑徳大学大学院看護学研究科 自己点検・評価委員会規程」及び「淑徳大学大学院看護学研究科 教育向上委員会規程」が決定された。
 - イ. 各委員会構成員の整備
規程の整備に伴い、平成28年度および平成29年度の各種委員会の構成員を決定した。各種委員会は、「研究科委員会」「教育向上委員会」「図書室運営委員会」「研究倫理委員会」「自己点検・評価委員会」「資格審査委員会」であり、「将来構想検討会」も発足した。
- (2) 授業アンケートの適正かつ確実な実施
授業アンケートについて、質問内容及び実施方法について検討し、実施した。書式の作成は教育向上委員長が担当した。前学期は4名の学生から回答が得られ、後学期は5名全員から回答が得られた。教員には各自の授業に対するアンケート結果を配布し、学生にはすべてを集計した結果をフィードバックし、教員の振り返り結果の概要を研究科長から口頭で伝えた。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 看護学研究科の各委員会規程、各委員会構成員の整備
 - ア. 各委員会規程の整備
看護学研究科委員会規程をはじめ、各委員会規程の整備が進められた。まだ整備されていない規程もあるため、今後も整備していく必要がある。
 - イ. 各委員会構成員の整備
各委員会の構成員は学部の委員会と基本的には同じ構成員とし、事務職員も含まれており、十分に整備された。

(2) 授業アンケートの適正かつ確実な実施

授業アンケートは前学期に1名の学生からの回答が得られなかったが、後学期は全員から回答が得られ、適正かつ確実に実施された。教員と学生へのフィードバックも適切に行われたと評価できる。各教員の授業改善に役立てられることが期待される。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 各委員会の規程の整備と見直し
- (2) 各委員会活動の活発化（特にFD活動と研究活動）
- (3) 退職教員の後任の人材確保
- (4) 将来構想検討会の活動開始
- (5) 授業アンケート・教員アンケートの実施

以上

4 その他（学生支援）

関連委員会	看護学研究科委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成28年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 学生が集中して学習に専念できる環境を整備する。
- (2) 奨学金の給付と適正な選考を行う。
- (3) 学生に関わる諸規程を整備する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 学習環境の整備（3年制長期コースの実施含む）
設置1年目の平成28年度入学生のため、学習環境の整備を行う。社会人学生に対しては3年制長期コースの選択を認める。
- (2) 奨学金の給付と適正な選考
学生に対し、前学期の成績を確認後、奨学金の適正な選考と給付・貸与を行う。
- (3) 学生研究費補助規程と教育助手補規程の整備
学生に対する規程として、「淑徳大学大学院 看護学研究科 学生研究費補助規程」と「淑徳大学大学院 看護学研究科 教育助手補規程」の整備を行う。

3 取組状況

DO

- (1) 学習環境の整備（3年制長期履修制度の実施含む）
学生5名のうち社会人学生が4名おり、4名とも3年制長期コースを選択し、承認した。
院生共同研究室には10台のパソコンとプリンター、コピー機、シュレッダー各1台を設置した。学生の在室時間は平日23時、土曜日は21時まで許可することとした。これに伴い、図書室の利用可能時間を平日23時、土曜日21時まで延長した。また、院生共同研究室のパソコン6台に統計解析ソフトSPSSを導入した。
授業を行う3-204教室にはパソコン、ホワイトボード（板書データをコピーでき、パソコンに保存できる）を設置し、入り口ドアにはロールカーテンによる目隠しを設置した。教室前には大学院の授業中であることを示す表示を出し、静穏な環境保持に配慮した。
- (2) 奨学金の給付と適正な選考
奨学金の申請は、淑徳大学大学院 給付奨学金に3名から申請があった。研究科委員会においてGPA及び収入状況によって選考を行い、支給額を決定した。
- (3) 学生研究費補助規程と教育助手補規程の整備
 - ア. 学生研究費補助規程の整備
看護学研究科においては、院生研究費の補助金に関して学会発表に関わるものに限ることなく、研究活動に必要な経費として用途範囲を広げ、研究活動の推進に役立つものとして「淑徳大学大学院 看護学研究科 学生研究費補助規程」を整備した。用途は、学会等参加費、旅費・交通費、謝礼等、通信・運搬費、印刷費、研究資料等、その他とした。それに伴い、申請書等を作成した。
 - イ. 看護学研究科教育助手補規程の整備
大学院生が学部の演習の授業の補助（ティーチングアシスタント）に入る際の「淑徳大学大学院 看護学研究科 教育助手補規程」を整備した。また、「淑徳大学大学院 看護学研究科 教育助手補補助授業科目に関する細則」「淑徳大学大学院 看護学研究科 教育助手補サービス細則」「淑徳大学大学院 看護学研究科 教育助手補手当支給細則」も併せて整備した。それに伴い、申請書等を作成した。

4 点検・評価

CHECK

(1) 学習環境の整備

設置1年目ということもあり、年度当初は学習環境として未整備な部分もあったが、学生や教員からの要望に応える形で整備が進められた。

(2) 奨学金の給付と適正な選考

今年度は申請者が3名と少なかったこともあり、十分な額の給付を行うことができた。本大学院の奨学金の充実した実態をもっとアピールすれば入学者増に繋がるだろう。

(3) 学生研究費補助規程と教育助手補規程の整備

この2つの規程を整備できた時期が少し遅くなったため、1年目の学生にとっては活用しにくい面があったかもしれないが、活用可能な状況にすることはできた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学習環境の整備は今後も引き続き行っていく。来年度は研究活動が本格化してくるため、日曜・祝祭日の院生研究室の利用、図書の貸出冊数等について検討が必要である。今後も学生とのコミュニケーションを密にとり、要望を伝えやすい状況をつくるよう努める。

以上